

# 対話のためのプラットフォームを実現するために —本学の新しい学術拠点の位置づけ—

中央図書館 収書・整理課 吉田 真由美

## 1. はじめに

近年、インターネットの普及、データベース・電子ブック・電子ジャーナルの進展により、図書館に足を運ばなくても様々な情報を

得ることができるようになりました。下記の表1および表2が示すように、本学図書館の入館者数および貸出冊数は、ここ数年著しく減少しています。

(のべ人数)

区分	中央	農学部	医学部	生物理工学部	工学部	産業理工学部	大学全体
平成25年度	695,065	106,976	59,779	118,835	59,135	45,236	1,085,026
平成26年度	671,144	105,929	57,684	115,688	59,150	39,349	1,048,944
平成27年度	655,287	105,929	49,891	105,633	58,551	36,473	1,011,764

表1. 近畿大学入館者数

(冊)

年度	区分	中央	農学部	医学部	生物理工学部	工学部	産業理工学部	大学全体
平成25年度	貸出総数	221,067	23,995	9,886	21,254	13,039	10,253	299,494
	(うち学生)	189,848	22,863	5,112	19,890	10,110	8,887	256,710
	(うち視聴覚資料の貸出点数)	3,046	93	138	-	248	350	3,875
	学生1人当り	8.2	8.0	6.8	10.2	4.7	5.3	7.9
平成26年度	貸出総数	219,974	20,530	9,535	21,485	12,557	9,599	293,680
	(うち学生)	191,265	19,369	5,102	20,650	9,725	8,211	254,322
	(うち視聴覚資料の貸出点数)	2,520	86	198	-	206	408	3,418
	学生1人当り	8.3	6.5	6.7	10.7	4.6	5.0	7.9
平成27年度	貸出総数	214,243	16,596	9,084	13,165	13,334	10,350	276,772
	(うち学生)	187,684	15,505	4,445	12,371	10,673	8,791	239,469
	(うち視聴覚資料の貸出点数)	2,069	139	177	-	226	647	3,258
	学生1人当り	8.0	5.4	5.6	6.4	5.0	5.3	7.3

表2. 近畿大学館外個人貸出冊数

平成27年度 近畿大学中央図書館年次報告書より

さらに現在、図書館利用者は文献検索や資料の閲覧または勉強をする学生ばかりではありません。むしろ、定期試験期間以外は授業の空き時間を過ごすために、時間潰しの場として利用している学生が多く見受けられます。図書館職員として、私はこの現状を憂慮しています。

そこで、文理の垣根を超えて社会の諸問題を解決に導くための学術拠点として現在建設中の新館における7万冊の図書と学生が集う場を「対話のためのプラットフォーム」と位置づけ、大学の中で新しい交流基盤をつくることにより、図書館利用者数増加に繋がる「仕掛け」を施すことが必要であると考えています。この「仕掛け」によって教員・職員・学生・一般の方々等多様な人達が集い対話することを通じて新しい価値を生み出す「対話のためのプラットフォーム」を実現するため、以下、具体策を論じたいと思います。

## 2. 5つの具体策

大学として学生に対し、その在学中はもちろん卒業後も、総合大学である本学らしい新しい交流が生まれるきっかけを提供し続けることを目標に、以下5つの具体策を提案します。

### ① T.A.による学習サポート空間

現在、図書館の4階で既に始めている3人の院生アルバイトによる学生向けレポート相談コーナーを進化させ、T.A.による学習サポート空間をつくります。具体的には、月曜日～金曜日の毎日1時間目～5時間目までの講義時間に合わせて、各専攻から推薦されたT.A.がレポート作成や卒論の執筆について学生にアドバイスを行います。それぞれのT.A.をする院生の専門分野の他、基礎科目等についても、学生のリクエスト或いはT.A.の判断により、必要に応じて個別相談・グループワーク・ディスカッションを行うことで、学生の意欲を取りこぼすことなくリアルタイムで拾い上げて伸ばすことの出来る空間となることを目

指します。

### ② 教員によるミニ講義

教員の方々にご協力いただき、持ち回りで1ヶ月ごとに1学部の担当制とし、毎週1回ミニ講義を行っていただきます。参加対象者は学部生、院生、教員、職員、一般の方々を問いません。ここで学部や研究科、立場を越えた異分野の人との交流が生まれ、教員を含め参加者全員が貴重な気付きを得る場となると確信しています。そこから新しい可能性や価値が生まれ、将来的には学部・研究科を超え、さらには学外と提携した画期的な共同研究開発が実現されることを目指します。

### ③ 学生発信による交流の場

学生個人・団体・クラブ・サークル・自治会等の展示や活動発表をしたり、留学生に対し日本の伝統文化や留学生による母国の伝統文化について伝える場をつくります。また、学生による留学経験談の発表やそれに基づくディスカッションの場を提供します。これにより、学部・研究科や人種・民族を超えた交流が生まれます。グローバル社会を肌で感じ、学生自ら企画から展示・発表を行うことにより、学生の向上心や主体性を養うことが出来ます。

### ④ 卒業生による講演や講義

現在、企業や他大学の教員として活躍されている本学卒業生に講演や講義をしていただきます。講義・ディベート等形式は問いません。就職活動や社会経験について学生が卒業生から直接話を聴くことにより、就職活動に役立つことはもちろんのこと、卒業までに自分がすべきこと、卒業後のなりたい自分像を具体的にイメージする機会を与えることが出来ます。これにより、学生は目標に向かって努力するきっかけを得ることが出来ます。一方、卒業生にとっても、後輩に自分について伝えることで、日々の仕事や活動のモチベーションが上がり、本学への愛着も深まり、結

果的に卒業生・在学生・本学の結束が強まります。

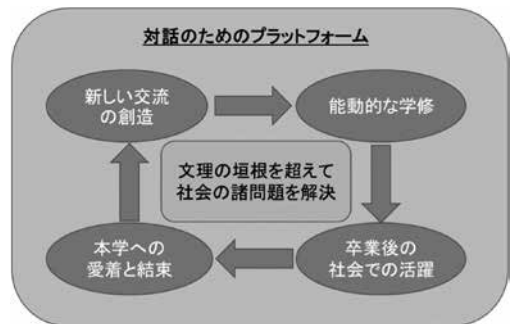
#### ⑤ 授業とのマッチング

教員の方々と連携することにより、学部・研究科の講義やゼミを、図書館の資料の活用を必須とする内容にさせていただきたいと考えています。レポート作成・予習・課題に取り組むために、図書館に足を運び、自分で調べて纏めないといけない内容が含まれることにより、卒論執筆時まで資料の検索・活用方法を身に付け、様々な文献に接し教養を高める機会を、教員の方々と図書館が一体となって提供したいと考えます。学生がインターネットの「浅い」情報をコピー・アンド・ペーストする現状をどの大学も嘆いていますが、図書館の活用により、質の高い文献に触れ、幅広く正確な知識を習得する能力は、卒業後に社会に貢献するために不可欠です。この図書館で様々な文献に触れ、自分の考えを言語化するプロセスは、学生に大きな自信を与えるものになるはずです。また、教員による講義とのコラボレーションとして図書館主催の企画に参加することで授業の出席に代替したり、授業の一部を新館で行っていただくこと等を教員の方々と一緒に検討したいと考えています。

#### 3. 効果

図書館が主体的に様々な企画を発信することで、学生、院生、教員、卒業生、さらには学外の個人・企業とのマッチングを促進することができます。新館に足を向けることになった学生には新しい交流のチャンスが生まれ、学生は能動的な学修を身につけることができます。そうして本学を卒業し社会で活躍する卒業生が、本学内に生まれたこの新しい交流により本学へ貢献するといううれしい循環が生まれます。本学に関わるあらゆるバックグラウンドを有する方々のためのこうした「対話のためのプラットフォーム」が実現することで、おのずと図書館の入館者数は増加に

転じ、学生の暇つぶしの場としての図書館の役割は終了すると考えています。



#### 4. まとめ

これまで述べました「対話のためのプラットフォーム」を実現するためには、私たち職員が積極的に考え行動する能動的意識を強く持ち続け、その実践のためにスキルアップしていく必要があります。

言い古されていますように、日本は少子化が加速度的に進んでおり、社会にとっての価値を見出されない大学は容赦なく淘汰される時代に入っています。この厳しい環境において、本学の価値を高めるために、図書館が率先して変わらなければならないと考えています。

そこで、目まぐるしく変わる社会を俯瞰し、現在、社会においてどのような人材、そしてどのような大学が求められているかを十分に理解し、そのニーズに的確に応えることが何よりも重要になります。そのために、本学全体が有機的につながり、一体となって新しい価値を社会に提供していくことが必要ではないでしょうか。その価値とは、まさに文理の垣根を超えて社会の諸問題を解決する場として本学が成長し続けることであると考えます。

私は図書館職員として、教員、職員、院生、学部生の垣根を超えて本学の特色を生かした新しい対話が日常的に行われる活気あふれるキャンパスを目指し、教員と職員の連携強化のためご協力をいただくことが出来るように努力してまいります。